NO210　7月号

FOREST NEWS

未来を守る木を植える
未来を育てる木を植える

2025年度　指標

①パンタナール地域における潜在自然植生の混植密植形式の植樹の実施
②国内において累計５００本の植樹活動
③植樹を通じた環境問題解決のロールモデルをつくる
④セミナーや植樹祭を通じて「家族で木を植える」文化の啓蒙
⑤混植密植の植樹を推進する他団体との連携

NPO法人　地球の緑を守る会　　発行人　藤生輝彦
〒182-0021東京都調布市調布ケ丘2-15-1ビリアベルデ407号　Tel:042-449-0183
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://midori.mond.jp/

理事長メッセージ

地球温暖化から身を守る方法は意外と簡単！

この夏、連日の猛暑で命の危険を感じた人もいたでしょう。しかし、もし皆さんが森の中、庭に樹木が生い茂った家に住んでいたとしたらどうだったでしょう。どんな猛暑であれ凌げたはずです。 この時代に生まれ育った世代は、森や樹木のない今のような環境を当たり前のように思っています。豊かな森を見たこともなければ触れたこともないからです。

しかし、昭和の初期（1940年代）に生まれた筆者の世代は、子供たちはみんな近所の山や神社の境内の森で木登りやかくれんぼをして遊んでいました。当時は大小の森がまだたくさん残っていたのです。 地球温暖化というのは、あくまでも地球全体の平均気温が、100年単位で、1.5～2.0度上昇するとか、しないとかの話なんです。IPCC「気候変動に関する政府間パネル」が、産業革命以前と比べ、地球の平均気温が1.5度上昇、それが自然現象でなく、人間活動の影響によると発表しました。たぶん正しいでしょう。しかしそれは地球全体の規模の平均のことです。たとえ今後、それが2.0度上昇したとしても、現実的にはなんの問題もありません。対処の仕方があるのです。庭に木を植え、木陰をつくればいいのです。 樹木は地表面の気温を調節する強力な機能を持っています。森を伐採し、太陽熱を防ぐ「緑の傘」がなくなってしまったことが問題なのです。 たとえば、明治神宮の森の中と外とでは、4～6度の温度差ができます。無数の葉の裏の気孔から絶えず水蒸気が蒸発し、気化熱を奪い、クーラー効果を発揮しているからです。 したがって結論は、家ごとに木を植え、小さな森をつくり、木陰さえつくれば温暖化の影響を直接受けなくてすむのです。都市化というのは緑を排除することではないはず。あくまでも暮らしやすい住環境をつくることです。

アパートは「アパートの森」をつくり、マンションは「マンションの森」をつくればいいのです。木陰をつくり、涼しい風を起こしながら、気力、体力を養いましょう。みんな生活の忙しさに追われ、いつの間にか木を植える営みを忘れてしまっているのではないでしょうか。

～LEDA植樹レポート～

パンタナール地域混植密植植樹　90日間の成長記録

Leda現地では,パンタナール地域の環境保全を目指した植樹活動が行われています。 月に2回、植えた木々の中から6つを選び、水やりと生育状況を観察しています。これらの記録は、活動の成果を測る重要な指標です。現在、Leda地域は本格的な乾季を迎え、7月を通じて晴天が続きました。このため、水分不足で元気を失う木々が目立つ状況です。30度近い気温が続く中、私たちは最初の3年間を「育樹」期間とし、苗の成長を支える努力を続けています。

育樹期間では、必要に応じて除草を行い、枯れた苗は「補植」として新たな苗を植える必要があります。補植には、元の樹種に加えて乾燥地に強く、他の木々に木陰を提供する役割を果たすニームなどの庇蔭樹（シャドウツリー）を取り入れることを検討しています。乾燥を防ぐためのマルチングが強風により剥ぎ取られていないかを確認し、必要に応じた水やりも実施しながら育樹期間を無事に終えることを目指します。この過程を通じて、植樹した木々が土地に適応し、最もバランスの取れた安定した森が形成されることを期待しています。

Leda現地での植樹活動は、南米地域の生態系再生を通じた環境問題解決のモデルを提供する重要な一歩です。今後とも皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。。

～国内活動レポート～

「苗木サポーター」による苗木作りと植樹啓蒙を始動

タブノキの苗木づくりから広がる植樹文化

当法人では、日本国内で独自開催の混植密植による植樹活動を進めており、関係人口を増やし、植樹活動の啓蒙、苗木確保のために、「苗木サポーター制度」を準備しています。植樹活動を独自開催するには、土地の提供や地域の担当者を立てることとともに、どんぐりやタブノキの実を使った苗木を育てる「苗木サポーター」を育成し、地域社会とともに生態系再生への新たなモデルとなることを目指しています。今回は、タブノキの苗木の作り方を紹介します

タブノキはどんぐりをつけない？

一般的などんぐりは秋（9～11月頃）に拾うことができますが、タブノキはドングリではなく、春から夏にかけて結実し、7月ごろから実が木から落ち始めます。実が熟すと黒くなり、鳥たちにも人気のご馳走になります。7月はタブノキの実を集めて苗木を育てる良い時期なのです。

鳥の糞由来の種子（白）は発芽しやすい

播種トレイにはペヤングヤキソバの入れ物が最適？

①種子は水に沈むものを選び、浮くものは除外します。種を植える前に種子を水に 1～3日浸けておくと発芽が促進されます。 沈んでいる種だけを使用します。

②播種トレイに土を入れます。種子をまき、薄く覆土します

③藁を被せ、保湿します。

④市販のカップ麺（ペヤング等）の空き容器も播種用ポットとして再利用できます。底に数か所穴を開け、水はけを確保してください。

苗木つくりは、アパートのベランダや玄関でも簡単にできます。是非、挑戦してみてください！

※次回はポット苗の移植を紹介します